

# 活動報告書

## 特定非営利活動法人チャレンジド

### 法人の理念

チャレンジドは、『障害当事者と共に学び、共に生きる』をモットーに、美浜に住む、赤ちゃんからお年寄り、障害をもった人も安心して住める町づくりをすすめている。また、ヘルパーの育成、障害をもつ当事者が、子どもたちとふれあう活動を通して、障害があってもなくても、自然に支えあえる地域となることを目指している。

### 主な活動

#### ◆ 日中一時支援：ちやれっこくらぶ

放課後にお子さんが帰ってからの時間や長期休暇を、チャレンジドで過ごしている。障害をもったお子さんの居場所づくり、親御さんがほっとできる時間を持つことを目的としている。

#### ◆ ヘルパー派遣：ヘルパーステーション NEO

自分らしい生活が送れるよう、ヘルパーを派遣し、日常生活のお手伝いをし、身体介護・家事援助・移動支援・行動援護、重度訪問介護などを行っている。ヘルパー派遣地域は美浜町と周辺地域。

#### ◆ 相談：指定相談支援事業所チャレンジド

「地域で暮らし続けたい」「自立したい」「困っていることを聞いてほしい」など、お話を聞いて、一緒に考えていく。

#### ◆ 講師派遣

障害をもつ当事者が、生の声を子どもたちに語る活動をしている。地域の学校に出向いての実践教室、ボランティア体験、大学生のフィールドワーク、希望があれば当事者が出向いてお話をする。

他にも様々なイベントや交流会、学習会が開かれている。

## 参加した活動

- ・障がいのある子とイルカふれあい体験交流 in 日間賀島
- ・日中一時支援
- ・青少年サマーボランティアスクールふくし探検隊

<障がいのある子とイルカふれあい体験交流 in 日間賀島>

### ◇活動内容◇

\*事前学習交流会～ビーチランド

日時：2009年7月24日（金）

\*イルカふれあい体験交流

日時：2009年8月5日（水）

参加者（対象者）：美浜町及び近隣地域の障がい児10名、中高生12名、大学生10名、一般ボランティア5名、事務局スタッフ3名

7日間の活動のはじめにイルカふれあい体験交流に参加させていただきました。この企画では、障がいのある子どもたちと一緒に日間賀島を訪れ、イルカと触れ合う体験交流をしました。この企画は、愛知県が、地域で活動するNPOから「心のバリアフリー推進事業」の委託事業として実施され、障がいのある子とイルカを通していっぱい交流し、一緒に楽しむ体験をしよう！をテーマに、地域の中学生にも参加を募り、一緒に活動しました。わたしたちは、この企画の計画から参加させていただきました。事前に日間賀島へ下見に行き、トイレの場所や着替える場所などを確認したり、しおりを作りや企画前に交流会として南知多ビーチランドへ行くなどしました。当日は、中学生と障がいのある子とペアになり、一日過ごしました。

### ◇感想◇

はじめはペアの子がどんな子なのか、どう接したらいいのか、みんな戸惑っていました。でも、事前交流会を通して、ペアの子とも中学生ともなかよくなることができ、当日は、あまり戸惑うこともなく一緒にイルカとふれあうことができました。この企画の中で、レクリエーションを考えていましたが、みんなで一緒に同じことをすることが難しく、できませんでした。海で泳ぐ子もいれば、砂場で遊んだり、走り回ったり、雨の中でも平気で元気に遊ぶ子どもたちに驚きました。この企画を通して、このような企画などで団体行動をするためには、たくさんのスタッフやボランティアさんが必要であることがわかりました、また、そのようにたくさんの支えがあることで障がいのある子どもたちの活動できる範囲を広げることができたり、遊び方も増やすことができるのだと感じました。はじめてイルカとふれあってみて、嬉しそうにしている子どもたちの笑顔を見ることができてとてもよかったです。

### <日中一時支援>

#### ◇活動内容◇

5日間3人ずつペアになり、交代で日中一時支援で活動させていただきました。ほとんど毎日、チャレンジドの庭にある手作りのプールで一緒に遊びました。レクリエーションを考えていましたが子どもたちはそれぞれに好きなあそびしか興味を持たなかったり、うまくレクリエーションを取り入れることが出来ませんでした。奥田の海岸の方へ散歩にも行きました。最終日には、チャレンジドの庭でバーベキューをしました。

#### ◇感想◇

スタッフさんは子ども一人一人のことをよく理解していて、子どもたちも安心して接していることが見ていると伝わってきました。また、障がいの症状だけでなく、その子自身の持つ性格によっても、対応の仕方が異なることを学びました。言葉が話すことができない子は、顔の表情や行動などで、気持ちを表すことができることを知りました。また、それを感じとることの難しさも学びました。そして、関係づくりの大切さに改めて気付かされました。はじめは、ちゃんと対応できるか不安でしたが、実際に活動してみると楽しいことばかりでとても充実した時間を過ごすことができました。

### <青少年サマーボランティアスクールふくし探検隊>

#### ◇活動内容◇

武豊町のまちで車いす体験をする中高生のサポートとして参加しました。この活動はいっぽの会が主催するふくし体験隊にチャレンジドから参加させていただきました。ふくし体験隊は、障害のある方の暮らしを知り、いつも歩いている武豊のまちを車いすに乗って、障がいのある方と一緒に歩き、まちのやさしさ、人のやさしさに気づき、自分にできるボランティアを考えると目的で行われています。車いすに乗るだけでなく、地域の中で、車いすを使用する障がい者が、どのように暮らしているかを当事者の方からお話も聞きました。この講演では、チャレンジドのヘルパーステーションNEOを利用している方からもお話を聞きました。

#### ◇感想◇

普段歩いている歩道を車いすで通ることで、思っていたよりも車に気をつかうことや、側溝や踏切、坂道など何気なく通っている道も車いすだと大変なことがよくわかりました。また、電車で車いすで乗る体験もしました。昔は、電車に乗るためには前日など、事前に伝えなければ乗れなかったそうです。今は、発車時刻の少し前に駅員に伝えれば、介助してくれました。障がい当事者の講演では、日常の生活についてや工夫していること、エピソードなどをお聞きしました。チャレンジドのヘルパー派遣を利用して、生き生きと地域で生活している当事者の方のお話を聞くことができよかったです。

### 学んだこと・これからの課題

今回の活動を通して、地域の中の課題として考えられることは、バリアフリー化だと思います。活動中、武豊町で車いす体験のスタッフとして参加したときに道が狭かったり、細かい階段が多かったりと、普段気付かないことにたくさん気づくことが出来ました。歩く人々にとっては、小さなことだけど、車いすの人にとっては、大きな問題でした。誰もが住みやすい街になるためには、このようなバリアをなくすことが大切だと思います。

また、日中一時支援で活動させてもらった中で、チャレンジドは子どもたちにとって、友だちと遊んだり、たくさんの人に出会い、関わることのできる成長の場でもあることや、保護者の方にとっては、他の用事を済ませる時間をとることができたり、保護者同士のつながりを作ることのできる場所になっていることを知りました。このような施設ではない、障がいのある子の成長となる場が地域にもっと必要であると思いました。

そして、地域をよりよくするための活動は、多くの人にNPO存在を知ってもらうことだと思います。住民だけでなく、大学生などにも知ってもらうことで活気があふれたり、協力を得て、力を増すこともでき、様々なことにチャレンジできるのではないかと思います。

### 後輩へのメッセージ

活動前は不安になることもあると思いますが、グループでよく話し合っただけでわからないことは調べたり、活動先の人に聞くなどして、事前学習をすることが大切だと思います。活動先の成り立ちや理念を知ることによって理解も深まり、対象となる障がいについて学ぶことは、活動の中でも役立つと思います。早くに活動日程、時間を決めることができると、活動内容を詰めることができ、より充実したものになると思います。活動中は、子どもたちに対応することでいっぱいだったので、毎回スタッフさんと活動後に反省ができると次の活動につながられると思います。活動はあっという間だと思いますが、スタッフさんと子どもたちからたくさん学ぶことで、グループのみんなと協力して活動を楽しんで下さい。